**「元気発進！北九州」プラン
の取組みと実績について
(平成19年度～令和5年2月)**

主な取組みと実績

- 「子育て日本一を実感できるまち」の実現を目指した取組
 - ・「次世代育成環境ランキング（NPO法人調べ）」11年連続政令市1位
 - ・「日本子育て支援大賞2021」自治体として初受賞
- 健康で長寿の社会づくり
 - ・住みなれた地域で暮らせるきめ細かな支援（地域包括ケアシステムの構築）
 - ・北九州市認知症支援・介護予防センターの開設
 - ・充実の医療機関・病床数、救急医療体制の充実（指定都市トップクラス）
- 安全・安心なまちづくりの推進
 - ・刑法犯認知件数がピーク時（H14）より8割以上減少
 - ・市政評価で「防犯・暴力追放運動の推進」が8年連続1位
 - ・暴力団排除の推進（工藤會総本部事務所の撤去）
- 文化・芸術、スポーツを活かしたまちづくり
 - ・「文学の街・北九州」、「映画の街・北九州」の振興、創造都市・北九州の推進、漫画・ポップカルチャーの振興、北九州マラソンの定期開催
 - ・「東アジア文化都市北九州2020▶21」、「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」の開催
- 本市の将来をけん引する戦略的なプロジェクトの推進
 - ・風力発電関連産業の総合拠点化へ向けた取組の推進
 - ・北九州空港が「九州・西中国の物流拠点空港」に向け大きく前進
 - 北九州空港の滑走路延長について国が調査費を計上（R2.4）
 - R3年度国際航空貨物取扱量が4年連続過去最高を記録、全国第6位に躍進
 - 九州・中国・四国地方で唯一の国際貨物定期便が就航・増便（R1.11～）
 - シーアンドエア輸送による人工衛星の輸入が実現（R3.11）
 - ヤマトホールディングスと日本航空共同による九州の航空輸送拠点到選定（R4.1）
 - UPSジャパンが国際定期貨物便就航を表明（R4.12）
 - ・ロボット開発・普及のモデル都市への取組
（ロボットテクノロジーを活用した地方大学・地域産業創生事業：H30年度採択）
- 世界の環境首都を目指した取組
 - ・アジア諸国とのパートナーシップ強化（ブノンペン都ほか）
 - ・アジアの課題解決に資する環境国際協力、環境ビジネスの展開
 - ・「環境と経済の好循環」によるゼロカーボンシティの推進
- 観光や大規模大会・イベントによるにぎわいの創出
 - ・日本新三大夜景都市に全国1位で再認定（R4.3）
 - ・インバウンド（外国人観光客数）、北九州空港利用者数が過去最高（H30年度）
 - ・TGC北九州の開催、国際会議開催件数が3年連続全国8位（H29～R元）
- 地方創生の成功モデル都市への取組
 - ・若い世代、子育て世代、シニア世代の社会動態の改善
 - ・国家戦略特区の指定と推進（介護ロボット等を活用した先進的介護の実証実装、エリアマネジメントの民間開放によるにぎわいづくりなど）（指定：H28.1）
 - ・東田・未来都市プロジェクト～The Higashida Future City Project～を始動（R4.8～）
- SDGsのトップランナーへ
 - ・OECDよりアジア地域初の「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定（H30.4）
 - ・国より「SDGs未来都市」、「自治体SDGsモデル事業」に選定（H30.6）
- DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進
 - ・北九州市デジタル市役所推進室の設置（R3.4）
 - ・「北九州市DX推進計画」の策定（R3.12）
 - ・第1回「日経自治体DXアワード」において全国で唯一、大賞を受賞（R4.3）
 - ・「夏のDIGI田甲子園」において初代日本一、内閣総理大臣賞を受賞（R4.8）
 - ・デンマーク大使館とDX、エネルギー等の協力に関する覚書の締結（R4.10）

I 人を育てる（子育て・教育）

主な取組み

【子育て日本一を実感できる子育て環境の充実】

- 総合周産期母子医療センター及び小児救急医療の充実
（センターの医師の確保・増員、市内産科医療の連携体制の充実）
- 妊婦健診の公費助成拡充
- 子ども医療費支給制度の拡大
 - 1 期目（通院：5 歳未満⇒小学校就学前、入院：小学校就学前⇒小 6 まで）
 - 2 期目（中学 3 年生までの入院医療費の助成を実施）
 - 3 期目（通院：小学校就学前⇒小 6 まで）
 - 4 期目（通院・入院：1 8 歳まで）
- 「赤ちゃんの駅」設置
- 各区役所等への保育サービスコンシェルジュ配置
- 保育士配置基準の充実（1 歳児：保育士＝国基準 6：1⇒市独自基準 5：1）
- 予備保育士雇用補助事業や保育士宿舍借り上げ支援事業などの保育士の確保
- 幼稚園・保育園の園庭芝生化
- 保幼小連携プログラム「つながる」の作成
- 放課後児童クラブの全児童化
- 市内 2 か所の大規模な室内遊び空間の開設
「子育てふれあい交流プラザ（元気のもり）」、「子どもの館」

【学校教育の充実、教育環境の整備】

- 3 5 人以下学級の実施
 - 1 期目（小学校 1、2 年及び中学校 1 年での実施）
 - 2 期目（小学校 3 年生での実施）
 - 3・4 期目（小学校 4 年生から 6 年生での実施、中学校 2、3 年生での裁量制の実施）
- 学校施設の改修
トイレ洋式化、耐震補強、老朽化対策（大規模改修、外壁改修等）
- 小・中学校の普通教室等へのエアコン設置
- 中学校完全給食の実施（H 2 3 年度から全中学校で実施）
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールヘルパーの充実
- 子ども読書活動の推進、学校図書館職員の配置、小中学校図書館空調整備
- 経済界との連携による学校支援事業
- 子どもひまわり学習塾の実施
- 英語教育の推進
- SDGs 教育推進校での実践研究と発信
- GIGA スクール構想の実現推進、教育用タブレット端末の整備
- 特別支援教室（通級による指導）の導入

【その他の主な取組み】

- 図書館の充実（八幡西図書館、戸畑図書館、八幡図書館、小倉南図書館、子ども図書館）
- 特別支援学校の整備（門司総合・小倉総合・小池・小倉北特別支援学校、北九州中央高等学園）
- 総合療育センターの再整備
- 子ども食堂の開設・運営支援
- 青少年の非行を生まない地域づくりの推進
- 子ども・若者応援センター「YELL」の運営

主な成果・指標

- NPO法人エガリテ大手前「次世代育成環境ランキング」での順位
政令市部門で11年連続第1位
- 合計特殊出生率の上昇
H18年 1.36⇒H22年 1.48⇒H27年 1.59⇒R3年 1.52
(政令市2位/20市中)
- 「子育て支援の推進」に対する市政評価の上昇
H18年度 24位 ⇒ R4年度 2位
- 市民満足度調査で「安心して子育てができるまち」と感じる人の割合
17.6%上昇 (H21年度 39.0%⇒R4年度 56.6%)
- 妊娠11週までの妊娠届出者の割合
H20年度 58.8% ⇒ R3年度 93.4%
- 生後4か月までの乳児家庭訪問の割合
H20年度 68.5% ⇒ H29年度 95.5%
R3年度 94.3% (コロナ)
- 赤ちゃんの駅登録箇所数
H21年度 314箇所 ⇒ R3年度 512箇所
- 放課後児童クラブの登録数
H18年度 5,704人 ⇒ R4年度 11,914人
- 放課後児童クラブの待機児童数
H18年度 105人 ⇒ R4年度 0人
- 保育所の待機児童数
H22年度 16人 ⇒ H23年度～R4年度 0人 (4月1日時点)
- 「学校教育の充実」に対する市政評価の上昇
H18年度 32位 ⇒ H30年度 13位 ⇒ R4年度 11位
- 授業以外(月～金)の学習時間が1時間以上の児童生徒の割合(小学6年生)
H20年度 42.3% ⇒ H30年度 58.1% ⇒ R4年度 53.2%
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果
R元年度 小学校・中学校の男女ともに、体力合計点が全国平均を上回った。
- 学校耐震化率
H20年度 35.2% ⇒ H25年度 82.5% ⇒ H27年度 100%
- スクールソーシャルワーカーの配置
H25年度 7人 ⇒ H30年度 12人 ⇒ R4年度 19人
- スクールヘルパー延べ活動人数
H21年度 95,550人 ⇒ H30年度 100,074人
R3年度 32,507人 (コロナ)
- 子どもひまわり学習塾実施校
H30年度 小学校101校 中学校62校 ⇒ R4年度 小学校93校 中学校62校
- 「北九州の企業人による小学校応援団」実施小学校
H18年度 0校 ⇒ H25年度 13校 ⇒ H30年度 132校 (全市立小学校)
⇒ R3年度 129校 (全市立小学校)
- 高速大容量の通信ネットワーク整備
R2年度 199校 (全市立小・中・特別支援学校・高等学校)
- 教育用タブレット端末(児童生徒1人1台端末)整備
R2年度 199校 (全市立小・中・特別支援学校・高等学校)
- 特別支援教室の導入
小学校: R元年度 小倉北区⇒R3年度 全区 中学校: R元年度 1校⇒R3年度 3校
- 八幡西図書館の開館 (H24.7)
- 小倉南図書館の開館 (H30.3)
- 子ども図書館の開館 (H30.12)
- 不登校等支援センター、教育支援室(かなだ、わかその、くろさき、あいおい)の設置

Ⅱ きずなを結ぶ（健康、医療、福祉）

主な取組み

【医療体制の充実・地域包括ケアシステムの構築】

- 救急医療体制の充実（第2夜間・休日急患センターの整備）
- 市立八幡病院の移転再整備（H30.12移転）
- 新北九州市病院事業経営改革プランの策定
- 市立病院（医療センター、八幡）の独法化
- 感染症対策の推進
 - ・新型コロナウイルス感染症対策
 - ・新型インフルエンザ等対策行動計画策定 など
- 地域包括ケアシステムの構築
 - ・地域ケア会議を全区で実施
 - ・随時開催している「高齢者いきいき相談」に加え、「まちかど介護相談室」の周知強化
 - ・地域支援コーディネーターの配置（各区役所保健福祉課）
- いのちをつなぐネットワーク事業の推進
- 総合的な認知症対策の推進
 - ・北九州市認知症支援・介護予防センターの開設
 - ・認知症サポーター養成

【健康づくり・生きがいづくり】

- 地域健康づくり事業の充実
（市民センターを拠点とした健康づくり事業、健康マイレージ事業など）
- 公園健康遊具の整備
- スポーツ施設の充実
- 高齢者のいきがいづくりの充実
 - ・年長者研修大学校等の運営
 - ・シニア・ハローワーク戸畑オープン
 - ・「いきがい活動ステーション」の運営

【障害者の自立支援】

- 障害者小規模共同作業所の助成強化（360万円⇒500万円）
- 「障害者スポーツセンター」開設
- 障害者ワークステーション北九州設置
- 北九州共同受注センター設置
- 「障害を理由とする差別をなくし誰もが共に生きる北九州市づくりに関する条例」制定

【その他の主な取組み】

- 生活保護不正受給防止（適正化推進チーム発足）、自立支援対策（就労意欲喚起事業など）
- 犬猫致死処分ゼロ社会宣言
- 自殺防止に向けた取組み
（北九州市自殺対策計画の策定、いのちとこころの支援センターの運営など）

主な成果・指標

- 「医療・衛生管理体制の充実」に対する市政評価の上昇
H18年度 13位 ⇒ R4年度 3位
- 特定健診の受診率の向上
H20年度（法定値） 22.0% ⇒ R2年度（法定値） 33.5%
- 市民満足度調査で「高齢者がいきいきと自分らしく暮らせるまち」と感じる人の割合
14.4%上昇（H21年度 29.0% ⇒ R4年度 43.4%）
- 認知症サポーター養成講座受講者数（累計）
H18年度 968人 ⇒ R3年度 97,199人
- 「健康づくりの推進」に対する市政評価の上昇
H18年度 23位 ⇒ R4年度 6位
- 市民センターを拠点とした健康づくり事業実施団体数
H20年度 61団体 ⇒ H25年度 111団体 ⇒ R4年度 133団体
- 健康マイレージ事業参加者数
H21年度 4,590人 ⇒ H30年度 20,061人
R3年度 1,417人（コロナ）
- 障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数
H19年度 53件 ⇒ R3年度 97人
- 障害者スポーツ教室等参加者数
H21年度 2,589人 ⇒ H30年度 6,766人
R3年度 766人（コロナ）
- 自殺死亡率（人口10万人あたりの自殺者数）
H27年度 19.04人 ⇒ R3年度 17.89人
- 権利擁護・市民後見促進（法人後見受任件数）
H21年度 12件 ⇒ R3年度 42件

Ⅱ きずなを結ぶ（安全・安心ほか）

主な取組み

【安全・安心なまちづくり】

- 「安全・安心条例」制定、「安全・安心条例行動計画」策定
- 暴力追放運動の強化（市の事業における暴力団排除措置、工藤會総本部事務所撤去など）
- 工藤會総本部事務所跡地における「希望のまちプロジェクト」への支援
- 1万人の防犯パトロール大作戦
- 防犯カメラの普及促進
- 防犯灯の設置維持補助金の増額（LED防犯灯補助率：1/2⇒3/4など）
- みんな de Bousai まちづくり推進事業
- 防災対策の充実（市総合防災訓練の実施、避難所体験・運営訓練の実施（毎年1回）、防災ガイドブック全戸・全事業所配布）

【男女共同参画、平和の取組みほか】

- 「空家等の適正な管理等に関する条例」策定、空き家バンクなど空き家対策の推進
- 市民のモラル・マナーの向上（「モラル・マナーアップ関連条例」制定）
- 女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランスの推進
- 全管理職によるイクボス宣言、北九州都市圏域の17首長による共同イクボス宣言
- 人権の約束事運動
- 「北九州市非核平和都市宣言」（H22.2）、「嘉代子桜・親子桜」の植樹
- 「北九州市平和のまちミュージアム」開館（R4.4.19開館）
- 多文化共生の推進
- 多文化共生ワンストップインフォメーションセンターの運営

主な成果・指標

- 「防犯・暴力追放運動の推進」に対する市政評価の上昇
H18年度 20位 ⇒ H27～R4年度8年連続1位
- 刑法犯認知件数がピーク時から8割以上減少
H14年 40,389件 ⇒ R4年 5,452件
- 北九州市空き家バンク
H30年度末 登録件数244件、成約件数144件
⇒ R5年2月 登録件数429件、成約件数305件
- 市の審議会等委員への女性参画率
H18年度 32.6% ⇒ R4年度 52.7%
- 市の女性役職者（係長以上）の比率
H20年度 12.1% ⇒ R4年度 22.6%
- 「イクボス充実度ランキング（NPO法人調べ）」H29、R2年度市区町村部門で2回連続1位
- 人権の約束事運動 参加登録団体数
H30年度末 1,610団体 ⇒ R3年度末 1,742団体（前年度から94団体増）
- 「嘉代子桜・親子桜」の市内学校や公園への植樹
累計241箇所に植樹を実施（市立全小中学校に植樹完了）
- 市民の「多文化共生」という言葉の認知度
H30年度 54.8% ⇒ R3年度 59.9%
- 外国人市民の生活環境の向上（多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答）
H26年度 79.7% ⇒ R1年度 85.0%

Ⅲ暮らしを彩る（文化・スポーツ）

主な取組み

【文化芸術の振興】

- 子どもノンフィクション文学賞、林芙美子文学賞の創設
- 宗左近記念室の開館
- 北九州文学サロンの開設
- 漫画ミュージアム開設、北九州国際漫画大賞創設
- 北九州ポップカルチャーフェスティバル開催
- フィルム・コミッション事業の推進、「映画の街・北九州」の情報発信、「松永文庫」整備
- ミュージアム・ツアー開始、文化芸術のアウトリーチ活動の充実
- 合唱のまちづくり（北九州市中学生合唱フェスティバル、市民参加型合唱祭等）
- 九州厚生年金会館の取得、リニューアルオープン
- 黒崎副都心「文化・交流拠点」整備
- 官宮八幡製鐵所関連施設の世界文化遺産登録
- 戸畑祇園大山笠行事のユネスコ無形文化遺産
- 旧大連航路上屋整備
- 東アジア文化都市北九州2020▶21の開催
- アジアMANGAサミット北九州大会の開催
- 関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～、砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～の日本遺産認定
- 小倉祇園祭の小倉祇園太鼓の国重要無形民俗文化財の指定（太鼓芸能では全国初）
- 「ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団」の公演

【スポーツの振興】

- 北九州マラソンの継続開催（R2、3は中止）
- 新球技場（ミクニワールドスタジアム北九州）オープン
- ギラヴァンツ北九州支援
- 国際スポーツ大会の誘致
- ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致・実施
- 2021世界体操・新体操選手権北九州大会の開催
- 桃園市民プール（グローバルマーケットアクアパーク桃園）の再整備

主な成果・指標

- 「東アジア文化都市北九州2020▶21」の開催（事業数214事業）
- 漫画ミュージアム入場者数 860,296人（H24.8～R5.1）
- 「平成29年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）」受賞
- フィルムコミッションへの評価
平成26年「東京ドラマアワード2014」特別賞、
平成27年第23回福岡文化賞・社会部門、
平成29年総務省「平成28年度ふるさとづくり大賞」団体表彰受賞
- 映画ロケ等の地域経済への貢献（経済波及効果）
H29年度 約7億7千万円（過去最大）、R3年度 約2億6百万円
- いのちのたび博物館入館者数 R4.10.19 入館者800万人達成
- 北九州マラソン開催による地域経済への貢献（経済波及効果）
H29年度 約10億3千万円
- ミクニワールドスタジアム北九州の経済波及効果（供用開始1年目）
11.7億円（H29.2～H30.1）
- WDSF Breaking for Gold World Series in 北九州の誘致（R5.2開催）
- ツール・ド・九州2023の誘致（R5.10開催）
- ラグビーワールドカップ2019におけるウェールズ代表の公認キャンプ誘致
- 東京2020オリンピックにおけるタイ・コロンビアのキャンプ誘致
- 東京2020パラリンピックにおける英国・ドイツのキャンプ誘致
- 2021世界体操・新体操選手権北九州大会の開催
71カ国から1,271人の選手・関係者が北九州市へ来訪
入場者数 26,665人
パブリシティ効果 446億3,600万円
経済波及効果 40億2,700万円

Ⅲ暮らしを彩る（地域活動）

主な取組み

【市民との協働、地域活動の支援】

- 「自治基本条例」制定、「北九州市協働のあり方に関する基本指針」策定
- 市民サブセンターの整備
- まちづくり協議会と区役所の連携強化
（地域総括補助金の増額、区の新たな魅力づくり事業の実施など）
- いのちをつなぐネットワーク事業の推進
- 自治会加入促進（自治会加入促進月間等）

【定住促進】

- 住むなら北九州 定住・移住推進の取組み

主な成果・指標

○市民センター利用人数

H18年度 4,794,471人 ⇒ H30年度 5,141,852人

R3年度 2,251,408人

（新型コロナウイルス感染症拡大による貸館業務の中止等に伴う減少）

○地域支援コーディネーターの配置

H27.5 各区役所保健福祉課に配置（R3年度16人）

○市民活動サポートセンター利用者数

H20年度 18,362人 ⇒ H30年度 28,683人

R3年度 8,256人

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館、閉館、利用制限期間あり）

○「住むなら北九州 定住・移住推進事業」の認定戸数

R4年度 234戸（R5.1末時点）（H29年度～R3年度 累計1,350戸）

Ⅳいきいきと働く（産業・雇用）

主な取組み

【経済状況への対応、新たな成長への戦略的取組み】

- リーマンショック不況に対応する緊急経済雇用対策の推進
- 新型コロナウイルス感染拡大及び原油価格・物価高騰等に対する緊急経済対策の実施
- グリーンアジア国際戦略総合特区の指定と推進
- 「北九州市新成長戦略」策定
- 国家戦略特区の指定と推進

【産業振興、地域経済活性化】

- 大型企業誘致へのトップセールス
- BCPの観点などによる戦略的企業誘致（データセンター、コールセンターなど）
- IT・情報通信系企業の戦略的誘致（九州・山口国立12高専訪問、マッチングイベントや進出企業本社見学会の開催など）
- 中小企業の新事業分野開拓支援（中小企業融資の実施、街かどショールームの実施など）
- ロボット産業拠点の形成
（内閣府「ロボットテクノロジーを活用した地方大学・地域産業創生事業」採択）
- 北九州空港を起点とした人・物（旅客・貨物）の交流創出による地域活性化
- 風力発電関連産業の総合拠点化
- 創業支援（COMPASS小倉創業相談、開業ワンストップセンターなど）
- リノベーションのまちづくり
- 農林水産業の地産地消・6次産業化の推進
- スタートアップ・エコシステム推進拠点都市に採択
- 中小企業の生産性向上に向けたDX・デジタル化の推進

【雇用・就業支援】

- 地元就職の促進（北九州ゆめみらいワーク、インターンシップ推進など）
- 奨学金返還支援事業（未来人材支援事業）の実施
- 「ウーマンワークカフェ北九州」開設
- 「シニア・ハローワーク戸畑」開設

主な成果・指標

- 緊急経済雇用対策予算
約6,600億円（H20.12補正～H24年度）
- 企業誘致実績（H19～R5.1末時点）
誘致件数：705件 雇用人数：12,119人 投資額：8,412億円
- 国家戦略特区実績（R4.9時点）16の特例を活用し、23の事業を実施
- 中小企業融資実績
R4年度（R5.1末） 約7,104億円
- 創業件数 R元年度 317件 R2年度 293件 R3年度 348件
- 有効求人倍率
H21年度 0.44⇒R3年度 1.07（R4.12 1.30）
- U・Iターン応援プロジェクト就職決定者
2,379人（H19～R5.1末時点）
- ウーマンワークカフェ北九州就職決定率 R3年度 31.5%
- 北九州空港の航空貨物取扱量（国際）
R3年度：19,605t（4年連続過去最高を更新）、中期目標 R6年度：42,000t
- 大規模洋上ウインドファーム誘致（H29.2）
- 世界洋上風力サミット日本初開催（R3.10）
- R2年度「北九州市DX推進プラットフォーム」創設 396社参加（R5.1末時点）
- R4年度「北九州市ロボット・DX推進センター」設立 710回専門家派遣（R2.6～R5.1末）
- R4年度「夏のDigi田甲子園」内閣総理大臣賞受賞（初代日本一）

Ⅳいきいきと働く（観光・にぎわいづくり）

主な取り組み

- 産業観光の振興（産業観光センター設置、工場夜景を活用した観光振興、SDGs修学旅行誘致）
- 小倉城周辺の魅力向上事業（天守閣展示リニューアル、しろテラス、竹あかりなど）
- ユネスコ世界文化遺産「宮宮八幡製鐵所関連施設」を活用した観光振興
- ユネスコ無形文化遺産「戸畑祇園大山笠行事」の振興
- 日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」を活用した観光振興
- インバウンド誘致
- 大規模イベントの開催（北九州マラソン、B-1グランプリin北九州など）
- MICE誘致
（G7北九州エネルギー大臣会合、世界医師会・世界獣医師会感染症国際会議、日中韓三カ国環境大臣会合（TEMU）、Horasisアジアミーティングなど）
- 都心部のにぎわいづくり
- 「TGC北九州」開催
- 「北九州ポップカルチャーフェスティバル」開催
- 市制50周年記念イベントの実施
- 日本新三大夜景都市に全国1位で再認定（R4.3）
- 九州初上陸「平成中村座 小倉城公演」
- 「関門海峡ミュージアム」リニューアルオープン
- 東田地区のにぎわいづくり
イオンモール^{（株）}の「ジアウトレット北九州」のオープンに合わせ、同敷地内にスペースLABO（北九州市科学館）を開設。

主な成果・指標

- 観光客数
H23年 2,241.7万人 ⇒ R元年 2,420.8万人
R3年 1,105.3万人（新型コロナの影響により減少）
- 宿泊観光客数
H23年 119万人 ⇒ R元年 192.9万人
R3年 124.6万人（新型コロナの影響により減少）
- 産業観光客数
R元年 54万7千人 R3年 11万1千人（新型コロナの影響により減少）
- クルーズ船寄港
R3年 4回（西海岸 4回）（新型コロナの影響により減少）
R4年 12回（西海岸 12回）（R4年実績）
- MICE開催件数
H20年 183件 ⇒ R元年 341件
- 国際会議開催件数（日本政府観光局調べ）
R元年 150件（全国8位） H29～R元年 3年連続過去最高（全国8位）
- 市制50周年記念事業 787事業

V街を支える（都市基盤整備）

主な取組み

- 漫画ミュージアム、あさの汐風公園など小倉都心の整備
- 折尾地区総合整備事業
- 黒崎副都心「文化・交流拠点地区」整備
- コムシティの再整備
- 新球技場（ミクニワールドスタジアム北九州）整備
- 浅生スポーツセンター整備
- 交通・物流ネットワークの強化（国道3号黒崎バイパス、新若戸道路の整備など）
- 環境に配慮した公共交通計画の策定（北九州市環境首都総合交通戦略）
- 北九州港の国際競争力の強化（機能強化と利用促進）
- 北九州空港を起点とした人・物（旅客・貨物）の交流創出による地域活性化
- 風力発電関連産業の総合拠点化
- 若戸大橋・若戸トンネル無料化
- 自転車専用レーンの整備
- まちなかで快適に居住できる住宅整備の促進
（高齢者等に配慮した優良建築物の整備、住宅購入資金援助など）
- 地域に役立つ公園づくり、健康づくりを支援する公園整備
- 紫川などの治水対策・河川改修などの推進（河川・下水道整備）
- 市民生活密着型公共事業の重点化
- グリーン公共事業の重点化
- 立地適正化計画の策定（生活支援施設の立地誘導や「街なか」居住の促進）
- 災害に強くコンパクトなまちづくりの推進

主な成果・指標

- 市民満足度調査：「道路、公園、建物など公共施設を安心して快適に利用できる」
9.2%上昇（H21年度 48.8% ⇒ R4年度 58.0%）
- 道路整備による都市高速ランプ10分圏域カバー率の向上
H17年度 約85% ⇒ H25年度 100%
- 北九州港に新規国内フェリー航路就航（R3.7 新門司～横須賀）
- 北九州港と日本海側を結ぶ国内コンテナ航路就航（R4.11ひびき～秋田・新潟）
- 北九州空港の航空貨物取扱量（国際）
R3年度：19,605t（4年連続過去最高を更新）、
中期目標 R6年度：42,000t
- 大規模洋上ウインドファームの誘致（H29.2）
- 海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）の指定（R2.9）
- 都市公園数の増加
H18年度 1,600 ⇒ R3年度 1,719
- 主要経路のバリアフリー化
H16年度 65% ⇒ R3年度 95%

VI環境を未来に引き継ぐ

主な取組み

- 環境モデル都市の認定（H20年）と推進
- 環境未来都市、グリーンアジア国際戦略総合特区のダブル認定（H23年）と推進
- 脱炭素先行地域の選定（R4年）と推進

【環境保全・リサイクル】

- 環境首都100万本植樹
- 資源循環拠点（エコタウン）の形成（都市鉱山等）
- 市民参加型の環境学習の推進（まなびとESDステーション開設など）
- 東日本大震災での災害廃棄物の受入（H24.9～H25.3）
- 安全なPCB処理の推進（処理継続の受け入れ）
- 響灘ビオトープ開設（H24.10）

【エネルギー】

- 建築物総合環境評価制度（CASBEE北九州）の普及促進
- 住宅用太陽光発電システム設置（H19～H24年度）
- 北九州スマートコミュニティ創造事業、城野ゼロ・カーボン先進街区形成事業
- 「北九州水素タウン」及び「響灘地区CO2フリー水素製造・供給」実証事業
- 地域エネルギー拠点の形成、株式会社北九州パワー設立
- 中小企業省エネ設備導入支援
- デンマーク大使館とDX、エネルギー等の協力に関する覚書の締結（R4.10）

主な成果・指標

- OECDグリーンシティプログラムへの選定（H23.6）
- OECD「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」への選定（H30.4）
- 家庭系ごみ排出量
H18年度 237,393 t ⇒ R3年度 172,717 t（約27%減）
- 一人一日あたりの家庭ごみの量
H18年度 約609 g ⇒ R3年度 約462 g
- 一般廃棄物のリサイクル率
H18年度 23.1% ⇒ R3年度 27.9%
- 北九州エコタウン累計投資額 約876億円（R3年度末）
- 北九州エコタウン視察者数 H30年度 100,014人（R3年度 40,032人）
- 環境首都100万本植樹プロジェクト
R3年度（R4.3末）11,190本 累計 約75万本
- 環境首都検定受検者数（H20年度～）
合計48,078人（H20年度458人 ⇒ R4年度5,751人）
- 環境ミュージアム利用者数 H30年度 130,386人 R3年度 42,873人
- スマートコミュニティ創造事業
「ISGAN AWARD 2014」においてアジアで唯一トップ10に入賞
- 本市の再生可能エネルギー導入量（R3年度末現在）
 - ・風力発電 36,451 kW（政令市第1位）
 - ・太陽光発電 305,421 kW（政令市第4位）
 - ・バイオマス発電 93,910 kW（政令市第1位）
- 株式会社北九州パワー実績（R3年度末現在）
 - ・電力供給施設 公共施設 701件、民間施設 222件
 - ・自治体が出資する新電力会社における電力販売量 第2位（60社中）

Ⅶアジアの中で成長する

主な取組み

- 【環境国際協力、アジア展開】
- アジアへの環境ビジネスの積極的展開（アジア低炭素化センターの開設など）
- 海外水ビジネスの推進（推進協議会の設置）
- 環境・上下水道技術国際協力の推進、国際研修生の受入れ
- 中国6都市と、大気環境改善における都市間連携協力事業
- 東アジア経済交流推進機構の推進
- インドネシア・スラバヤ市との環境姉妹都市締結（H24.11）
- ベトナム・ハイフォン市と姉妹都市協定の締結（H26.4）
- カンボジア・プノンペン都との姉妹都市締結（H28.3）
- フィリピン・ダバオ市との環境姉妹都市締結（H29.11）
- 国際交流の推進

主な成果・指標

- アジアへの環境ビジネスの積極的展開（H22 アジア低炭素化センターの開設など）
受注件数：94件（受注額229億円）（R4.6時点）
- 海外水ビジネスの推進（推進協議会の設置）
受注件数：81件（R4.3末時点）
（参考：最近の受注事業）
 - ・カンボジア・プノンペン都下水処理場整備事業（建設工事）
北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業のJV、約23億円
 - ・カンボジア・プルサット上水道拡張事業（建設工事）
北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業、約20億円
 - ・カンボジア・タクマウ上水道拡張事業（建設工事）
北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業のJV、約29億円
- 環境分野の国際協力研修員受入 10,243人（R3年度までの累計）
- 中国6都市との連携協力
訪日研修222人、専門家派遣421人（H26～H30年度）
- 外国企業・機関との連携件数20件（R4.6時点）
- 姉妹・友好都市等との交流事業の延べ参加者数 R3年度 319人
（新型コロナウイルス感染症の影響で往来に制限有）

Ⅳ地方創生、市のマネジメント他

主な取組み

【地方創生の推進】

- 「第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定」（R2.4）、地方創生の推進
- 都市の魅力発信（時と風の博物館の開設、JR小倉駅を活用した情報発信など）
- 連携中枢都市圏「北九州都市圏域」連携協約締結（H28.4）
- 若者をターゲットとした地方創生のための都市ブランド「New U」を通じた新たな都市イメージ（あたらしいことを、はじめやすい都市。）の発信
- 九州・山口一円の学生就職応援プロジェクト（大学や高専等へのトップセールス、業界研究イベントの実施など）

【市のマネジメント】

- 区役所窓口ワンストップサービスの実施（フロアマネージャー、番号発券機の設置）
- 区役所窓口延長の本格実施
- 八幡西区役所のコムシティへの移転
- 行財政改革の推進（北九州市経営プラン、北九州市行財政改革大綱策定）
- 公民連携パートナーシップの推進
 - ・指定管理者制度の導入・PFI事業の推進（ミクニワールドスタジアム北九州など）
 - ・提案型ネーミングライツの導入
- 公共施設マネジメントの推進
- 投資的経費の適正水準の維持
- 中期財政見通しで定める投資的経費の水準である620億円の維持
- DX推進（北九州市DX推進計画策定）（R3.12）
- デンマーク大使館とDX、エネルギー等の協力に関する覚書の締結（R4.10）

【定住促進】

- 住むなら北九州 定住・移住推進の取組み

【SDGs】

- OECDよりアジア地域初の「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定（H30.4）
- 国より「SDGs未来都市」、「自治体SDGsモデル事業」に選定（H30.6）
- OECDが「OECD SDGs北九州レポート」を発表（R3.6）
- 北九州SDGsクラブの創設
- 地元企業のSDGsの取組を支援するため、市内20金融機関と協定を締結（全国初）
- 北九州SDGs登録制度の創設
- 自治体初となるサステナビリティボンド「北九州市SDGs未来債」の発行
- 北九州市SDGs未来基金の創設

主な成果・指標

- 若い世代の定着を始めとした社会動態の改善
- 「住みよいまち・北九州市」の全国誌・全国放送での掲載・放送
- ワンストップサービス（転居、国保、介護の手続）
約50分 ⇒ 約30分に短縮
- 行革効果（北九州市経営プラン、北九州市行財政改革推進計画）
13年間（H21～R3年度）で798億円の行革効果
- 職員数の削減（H18年度 9,548人 ⇒ R4年度 7,199人）
- 指定管理者制度導入による経費削減効果 約36億円（H15～R3年度）
- 提案型ネーミングライツの導入（R4年度新規導入：5施設【総額2,565万円】）
- 公共施設のマネジメント担当副市長、専門組織の設置（H26.4～）
- 財源調整用基金残高：327億円（R3年度決算額）
- 環境省環境調査研究所 北九州研修事業事務局開設（H28.10）
- 第1回「日経自治体DXアワード」において全国で唯一、大賞を受賞（R4.3）
- 「夏のDigi田甲子園」で優勝（指定都市等部門で初代日本一に選定）（R4.8）
- 「住むなら北九州 定住・移住推進事業」の認定戸数
R4年度 234戸（R5.1末時点）（H29年度～R3年度 累計1,350戸）
- SDGsの様々な取組により、本市のSDGs認知度が全国平均を上回る
H30 23.5% ⇒ R4 84.6%（全国平均76.3%）
- 第2回「地方創生SDGs金融表彰」を受賞（R5.2）